

12月終業式

聖書 ルカによる福音書 10章 25-35節

25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」 26 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、27 彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」 28 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」 29節 しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。 30 イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。 31 ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。 32 同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。 33 ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、 34 近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。 35 そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』

立ち止まる

今年の後期は夏休みが延長されてひと月ほど開始が遅くなりました。そのため英和祭は昨年につき11月に、また感染防止のため讚美歌コンクールは中止となりました。それでもスタディーツアーの再開、朝の礼拝、クリスマス礼拝で讚美歌を歌えるようになりました。少しずつ新しい学校生活のスタイルができていくのかもしれませんが。

さて今年の冬至は明後日**22日**です。古来、冬を越すことは生死にかかわる厳しいことでした。現在もそうした環境にある人びとにとっては同様です。日本では無事春を迎えられるように、冬至には南瓜や小豆、大根などを食し、ゆず湯に入る習慣などがあります。師走の忙しい手を止めて休み、風邪や感染症にならないようにと願いも込めて行われます。

聖書でもサマリア人が立ち止まり、そばに来てくれたので倒れた人は助かりました。それを思うと、このパンデミックは神様から立ち止まりなさい、そばに来て助け合いなさいというメッセージなのかもしれません。止まることない競争、格差、分断の時の流れの中で立ち止まり、互いを見つめなさいと言われているのかもしれません。

とても忙しい三ヶ月だったかもしれません。次々と時間が過ぎてしまうような生活から少し立ち止まり、他者を見つめ、自分自身を見つめる時間を大切にしましょう。人だけでなく生き物、動物、植物、花鳥風月、自然、地球の環境についても関心を持ってみましょう。どうかこの世界が互いにいたわり、励まし、慈しみのまなざしで見つめ合う世界になれるようにと祈りましょう。

しばらく黙祷しましょう。

私たちを愛し、励まされる主よ。

あなたは倒れた人の前で立ち止まり、そばに来られる方です。どうか後期12月までの学校生活をふりかえり、心身共に休みの時をお与え下さい。どうか冬休みの間も英和生、教職員、そのご家族を守り、喜びと感謝をもって新しい年を迎え、心新たに歩み始めさせて下さい。主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。アーメン